

1 題材 手をつなごう，心をつなごう

2 題材について

3年生は、友達のよさを認めたり、学級の中での自己の存在感を意識したりして、自分と友達の間関係を客観的にとらえることができるようになってくる。しかし、仲間意識が強い子とは共に活動したり遊んだりするが、そうでない子を避けたり、力関係の強い方が自分の言い分を一方向的に押しつけたりするという行動が見られる時期でもある。

そこで、違いを認めながら共に学び、互いを尊重し合える好ましい人間関係と、学級の一員として仲間と協力する態度を育てるために、学級目標を「手をつなごう，心をつなごう，学びをつなごう」とした。本題材で、学級目標の意義を再認識させたい。

3 児童について（男子16名，女子16名，計32名）

新しい学級がスタートして7ヶ月が経ち、子どもたちはすっかり打ち解けて仲良く遊ぶ姿が見られる。

楽しいと答えた

児童の中にも楽しくないと感じることもあり、その理由は、やはり「友達に悪口を言われたとき」「けんかしたとき」など人間関係に不安が生じた場合である。学校が楽しくなるかならないかは、好ましい人間関係を築けるかどうかにかかっているとんでも過言ではない。

そこで、自分と違った他者を受け入れ、仲間とつながる力を育てるために、構成的グループ・エンカウンターを定期的に取り入れている。

4 指導について

導入で、古代文字の（手）が2つ並んだ文字（友）と（共）を見せて、何の漢字か考えさせる。古代から「手をつなぐ」ことには大切な意味があったことに気付かせ、実際に握手や手をつなぐ動作化をして、仲間とつながる雰囲気を感じさせたい。

次に「心をつなぐ」とはどういうことか、どうすれば心がつながるのか話し合う。みんなが仲良くするためには、“みんなのいいところをたくさん知ること”（「学校が楽しいと感じるためにはどうすればよいか」というアンケートでのある児童の回答より）が大切なことから、「キラッと光るあのいっしゅん」のエクササイズを行う。友達のよさを知ることは相手の気持ちやものの考え方を理解することでもある。クラスの中で、キラッと光る（すごいなあ、見習いたいなあ）と感じる友達がいることを確かめ、そんな友達がいるクラスのよさに気付かせたい。

終末に、今ちょうど音楽で習っている「一人の手」を歌詞の意味を考えながらみんなで歌い、学級目標のように、手や心や学びをつないで、より楽しいクラスをつくってほしいという意欲につなげたい。

5 本時の目標

- ・仲間と手や心をつないで、明るく楽しいクラスをつくってほしいとする態度を育てる。

6 準備物

古代文字カード、白川ボックス、手の絵、キラッと光るあのいっしゅんカード、色鉛筆
 児童の写真、「一人の手」のCDと歌詞

7 本時の学習過程

学 習 活 動	支援（・）と評価（☆）
<p>○「<input type="text"/>をつなごう、<input type="text"/>をつなごう」の<input type="text"/>に入る言葉を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手 ・心 ・笑顔 ・命 など <p>○<input type="text"/>（手）が2つ並んだ古代文字<input type="text"/> <input type="text"/>から何の漢字か予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<input type="text"/> → 友 手を取り合って助け合う ・<input type="text"/> → 共 とともに、いっしょに <p>○「心をつなぐ」とはどういうことか、どうすれば心がつながるのか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの気持ちを一つにしてがんばること。 ・いつもみんな笑顔でいること。 ・だれとでも仲よくする。 ・みんなでいっしょに楽しく遊ぶ。 ・困っている友達を助ける。声をかける。 ・いやなことを言わない、しない。 <p>○「キラッと光るあのいっしゅん」のエクササイズをする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①☆マークの言葉に合う人を思い浮かべたら好きな色をぬる。 ②同じ言葉に何人もの人を思い浮かべてもよい。誰も思い浮かばなかったらぬらない。 ③先生が一つずつ読んだらぬる。先にいかない。 <p>○☆の数を確かめ、振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見つけた☆の数 ・自分もまねしたいと思う☆の数 ・そんな友達のいるクラスをどう思うか <p>○「一人の手」を手をつないでみんなで歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ♪みんなの手と手を合わせれば何かできる ♪みんながみんなが集まれば強くなれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級目標の中の言葉であることに気付かせる。 ・「友」と「共」の漢字の成り立ちを簡単に説明した後、隣同士で右手と右手で握手したり、手を取って立ち上がらせたり、両手をつないだりして、友達とつながる感じを体感させたい。 ・リレー大会や運動会のデカパン競争で、みんなの心を一つにして頑張ったことを思い出させる。 ・アンケート「クラスが楽しいとみんなが感じるためにはどうすればよいか」の回答を紹介し、みんなの心がつながると楽しく生活できることに気付かせたい。 ・言葉に合う友達を思い浮かべやすいように、一人一人の顔写真を黒板に掲示する。 ・「これ、～ちゃんだ。」「こんな子いる。」といったつぶやきを大事にしたい。 ・学校が楽しくないと回答した2人の児童の特徴的なよいところを☆に書いておき、みんなから名前が挙がるようにする。 ・数の多さよりも、誰にどんなよさがあるかに気付くことが大切なことを知らせる。 ☆クラスの中にすごいな、見習いたいなど感じる友達がいることが分かり、クラスのよさに気付くことができたか。(カード) ・緘黙の児童には、歌えなくても手をつなぐことができれば素敵な仲間になることをそっと伝える。